

ボランティアの心

子供たちから学ぶもの

私のボランティアのルーツらしきものをたぐってみると、国民学校(現在の小学校)の入学時に日本全土で叫ばれていた勤労奉仕、滅私報国、やがては「一億一心火の玉」となったの大合唱となり、74年前の昭和16年12月8日に始まった太平洋戦争に勝利するために授業よりも優先して国策としての強制労働であり、思想統制で、ボランティアとはまったく異質のものでした。

平成18年にカレッジを卒業して最初のボランティア活動はすぐ近くの、孫がお世話になった学校での学習支援。2年生と6年生の算数の授業で担任の先生の補助として児童1人1人と関わるものでした。その後、2、3の学校で課目、活動時間は異なりましたが、同じような活動を通しての児童との触れ合いが、後の戦争体験語り部活動に少なからず影響しているように感じます。現在、私は神戸市の小学校9校、中学校2校(平成27年度)で戦争体験「神戸大空襲を語る」と題して6人のメンバーと活動を始めて5年になります。児童生徒を前にして75年前の昭和20年6月5日にアメリカ空軍の空襲によって、神戸が火の海となり、罪なき人々が無残に焼



き殺されていった地獄絵を目のあたりにした1人として、平和の尊さと生きることがいかに素晴らしい事かを語り、次の世代に伝えて頂くことを期待しています。それぞれの語り部の真剣な体験談にかれらも真剣な眼差しで応えてくれます。そして素晴らしい感想文を毎年、寄せてくれます。冒頭にあるような時代を過ぎた私にとって、ボランティアの心をどのように持ち、どこに置いて活動すべきか自問自答しながら、これからも愚直に子供たちに関わりたいと思っています。

仲良し学級(特別支援教育学級)で1年入学時から付き添ったS君が3月に卒業しました。見違えるほど立派な体格となり、先の音楽会では、最後列の高い所で立派に役目を果たして得意満面でした。週に1回、彼と会っていましたが、帰り際、彼の「もう帰るの」という言葉がやけに耳に残っています。

むかしあそび研究会での活動では涙を垂らしながら遊んだ子供のころを思い出しながら、幼な子と夢中になって遊んでいます。こうした活動は他のためにすることはさることながら、馬齢を重ねるたび、自分のためでもあると信念めいたものとなっています。仲間のみなさんと支え合いながら1日でも長く活動できたらと念じている今日このごろです。(渡辺 寛治・国10 戦争語り部チーム)

活動レポート

ユニバーサルデザインフェア 〈わ〉本部、タンスの肥やし参加

ユニバーサルデザインフェアが3月20日(日曜日)にしあわせの村体育館で開かれ、グループ わ本部と環境部会のチームたんすの肥やし(藤本明美代表=生17)が参加しました。

本部の3人は妖怪ホイホイを担当。ブースで長さ3.4メートルの専用台と妖怪ボックスを机の上にセットします。スタッフが妖怪ホイホイの顔をした楕円形の板をゴムで引っ張って滑らせます。妖怪ボッ



クスの箱の前でスリッパを片手に待ち構える参加者が真上から打ち下ろし、ホイホイを射止めることが出来たら参加者が勝ちというゲーム。車いすの障害者、つえを突いたお年寄りも机の上なので楽に参加できます。3歳くらいの幼い子もお兄ちゃんに負けずに夢中になってスリッパを振り回していました。

たんすの肥やしの7人は午後2時20分からステージでのファッションショーに出演。和服をリメイクしたスカートやワンピースをまとい、花道を華やかに歩きました。昨年秋のいきいきシニアフェアに続いての出演で少し慣れて堂々とした姿に見えました。神戸市では、年齢、性別、文化、国籍、障害など個性や違いを越えて、すべて



の人が持てる力を発揮し支え合うユニバーサル社会の実現に取り組んでおり、このフェアはその一環。高齢者疑似体験、福祉用具の展示、作業所の作品販売など39のブースとステージで繰り広げました。

(広報 藤田健一)

国際部会 英語点字グループ ミャンマーの盲学校を訪ねて

本年2月に初めてミャンマーを訪問する機会を得ました。熱心な仏教徒の国と言うこと以外は、ミャンマーは私にとって未知の存在でしたが、英語点字グループとの繋がりは永く、今までにも数多くの児童向け英語点字図書を寄贈してきました。

私と点字との出会いはシルバーカレッジに入学してからで、カレッジ卒業後も点訳活動を続け、一度是非、寄贈先のミャンマーに行ってみたく思っていたところにタイミングよくNPO神戸ミャンマー皆好会からのお誘いがあるあって漸く訪問が実現したわけです。今回は「アウン・サン・スー・チー物語」を含め17巻の点訳本をヤンゴンにあるキリスト教系盲学校に持参しました。

この盲学校には2004年9期生のグループ学習にて訪問して以来、12年間に10回目の訪問になる記念すべき年でもあり、盲学校側から長期の活動に対して感謝状を頂戴しました。



ミャンマーではビタミン不足から幼児期に失明する子供が多いとのことですが、学校内の見学で生徒たちが熱心に勉強している姿に感動を覚えました。

今後とも点訳活動を続け、アジアの貧しい国々の目の見えない子供たちを少しでも支援できたらと思います。
(吉本清二 健福16期)

里山和楽会のかがやきの森 全国重要里地里山500選に選定

里山和楽会が過去9年間、熱心に手入れしている神戸市北区のかがやきの森東地区が、2015年12月に環境省の全国重要里地里山500選に選ばれました。環境省の選定基準は、生物多様性を守る観点から①多様で優れた二次的自然環境を有する②多様な野生動植物が生息するなどです。

道満代表は「地道な活動が国にも高く評価され、うれしい。仲間もこれまでの苦勞が報われ、大変喜んでい」と話していました。

中央区会 軽度障害者の歩行訓練 「神戸育成会、

筒井の宮作業所」での軽度障害者の歩行訓練の支援を2月16日に行いました。



この作業所ではマジックも月1回行っています。

親睦ボーリング大会 親睦行事として、毎年2~3回パターゴルフやボーリング大会をしており、毎月、第1土曜に開催している定例会議の後の2月6日に17人参加しボーリング大会を楽しみました。

垂水区会 多聞ひまわり幼稚園 もちつき大会支援

12月15日に、多聞ひまわり幼稚園でのもちつき大会を4人で支援しました。餅つき後、約1時間、年少組と年長組の2クラスに2人ずつに分かれて“孫”達とつきたてのモチを味わう楽しい時間をもちました。

多聞ひまわり幼稚園 生活発表会!

2月18日に園児による「生活発表会」に招待されました。園児が「きりんさん」「うさぎさん」を一生懸命に演じる様子は微笑ましく、たくさんの元気をもらいました。



また1月19日には植栽ボランティア終了後に園児とコマ回しなどで遊び、童心に戻りました。

グラウンドゴルフ大会 2月14日9時から2時間半、昨夜の雨が上がった舞子苔谷公園の舞子台ふれあい市民公園に32人が集まり、元気にグラウンドゴルフを楽しみました。ホールインワンが17も出て、その都度大きな歓声が上がっていました。

西区会 春の親睦「垂水まちなか散策」

3月16日午前9時30分に垂水駅東広場に15人が集合し、快晴の中を、海神社、遊女塚、五色塚古墳、孫文記念館、舞子海上プロムナードなどの名所・旧跡を、垂水観光ボランティアガイドの案内で楽しくのんびりと散策しました。

ティオ舞子の海彩園で楽しく昼食をとり、解散しました。